

Media information

(和訳)※原文(英語)については5ページ目以降をご参照ください

NO. 244/2020

VPR20-052

2020年10月2日(金)

年次株主総会:フォルクスワーゲンが2020年の業績見通しを再確認、将来の投資の必要性を改めて強調

- グループは2020年も引き続き営業利益の黒字化を達成できる見込み
- 9月の納車および受注台数は前年を上回る見込み
- 年末までの業績は上昇傾向にあると予測
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるパンデミックの中にあっても、e-モビリティとデジタル化への投資継続を確認
- CEO ディース:「グループの変革は、新型コロナウイルスによって停滞どころか加速しています。今後10年間でクルマは完全にネットワーク化されたモビリティデバイスへと進化を遂げ、駆動システムの変化以上に、広範囲にわたる影響を及ぼすことになるでしょう。」

ベルリン、2020年9月30日 本日、フォルクスワーゲン グループは2020年の業績見通しを再確認し、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックにもかかわらず、将来への投資を計画通りに実行することを改めて強調しました。「2019年と2020年の両年にわたり、私たちはe-モビリティおよびデジタルモビリティのリーディングカンパニーになるための本質的な方向付けを行い、重要なマイルストーンを達成することができました」と、フォルクスワーゲン グループ最高経営責任者(CEO)のヘルベルト ディースは、フォルクスワーゲンAGのデジタル年次株主総会において述べています。「グループの変革は、新型コロナウイルスによって停滞するどころか、加速しています。」フォルクスワーゲン グループは、2024年までにe-モビリティの分野に330億ユーロを投資する計画であり、電気自動車のマーケットリーダーになることを目指しています。成功のためのさらに重要な要素は、現在「Car.Software Org」が開発している新たなVW.OSオペレーティングシステムです。このOSは、アウディの「Artemis (アルテミス)」プロジェクトで初採用される予定です。2024年までに、ITの専門知識構築および自動運転技術の開発専用、140億ユーロの投資が行われる予定です。「今後10年間でクルマは完全にネットワーク化されたモビリティ デバイスへと進化を遂げ、駆動システムの変化以上に、広範囲にわたる影響を及ぼすことになるでしょう」とディースは述べています。フォルクスワーゲンは、年末までの業績は上昇傾向にあると予測しており、2020年に営業利益の黒字化を達成するという見通しを立てています。

2020年の会計年度における業績は、新型コロナウイルス感染症による影響が明確に表れたものとなっていますが、下半期には回復に向かっています。全世界における8月末までの納車台数は21.5%減少して560万台(前年:710万台)となりました。グループは市場平均よりも高い実績を残し、世界の市場シェアは前年比0.4%上昇して13%となりました。プレミアムおよびラグジュアリーブランドは、量産ブランドやトラック&バス部門に比べ、危機下においても減少幅が少なくなっています。グループ最大の単一市場である中国では、8月末までの納車台数の減少幅は最低限に留まり、11.5%減となっています。中国では、販売される新車の5台に1台がフォルクスワーゲン グループの製品です。

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

この期間中、ホームマーケットである西ヨーロッパでは、パンデミックによる深刻な打撃を受け、30.9%の急激な落ち込みを記録しました。しかし、市場シェアは 0.8%上昇し 23.7%へと成長しました。第 2 四半期末の段階で、自動車部門の純流動性は 187 億ユーロと、健全なレベルに戻りました。在庫車両の削減が、この達成に大きく貢献しました。

グループは、デリバリーチェーンを安定化し、ディーラーやお客様に継続的に製品を供給するための“100 ポイント プラン”を実施しました。フォルクスワーゲンは、社会的責任を果たすため、例えば、南アフリカの工場跡地を臨時の病院に改装し、人工呼吸器や医療用マスクを製造し、4,000 万ユーロ相当の救援物資を寄付しています。パートナーであるディーラー各社を支援するための広範囲なプログラムも開始しています。ヘルベルト ディース CEO は、従業員の真剣な取り組みに感謝の意を表明しました。「67 万人のフォルクスワーゲン従業員は、コロナ禍において、自身の能力を遺憾なく発揮しています」とディースは述べています。

グループは、受注および納車台数に関して、9 月は前年同月を上回り、その上昇傾向は年末まで継続すると予想しています。その結果、フォルクスワーゲンは、グループ全体で利益を出し、2020 年に良好な業績を報告するという目標を確認しました。「しかし、中長期の予測に関しては、引き続きかなり不透明な要素が多く、パンデミックの終息状況に左右されます」とディースは付け加えています。

年次株主総会において取締役会と監査役会は、通常株 1 株あたり 4.80 ユーロ、優先株 1 株あたり 4.86 ユーロの配当を提案しました。これは、2019 会計年度に発表された普通株 1 株あたり 6.50 ユーロ、優先株 1 株あたり 6.56 ユーロの配当案を修正するものです。8 億 5,500 万ユーロの純利益剰余金は、来年の勘定に繰り越されます。その背景について、ディースは次のように述べています。「今回の決定は、グループの財務的健全性の欠如によるものではありません。当初の配当案は、2019 会計年度の好調な業績を基準に判断したものです。新しい提案は、パンデミックが当社に及ぼし、そして今後も続く大きな影響を考慮しています。」

戦略的分野とブランドに関する声明

商用車事業は、スカニアと MAN の相乗効果をさらに高め、さらなる効率の可能性を引き出す「Global Champion(グローバルチャンピオン)」戦略の実行に重点を置いています。「グループ取締役会において、グンナー キリアンがトラック&バス部門担当取締役に就任し、トラック事業の体系的な再編に取り組んでいます。TRATON(トレイトン)の新 CEO のマティアス グリュンドラー、MAN の新 CEO のアンドレアス トストマンと共に、ミュンヘンに本社を置き、長い歴史を誇る MAN の業務効率改善に全力を尽くします」とディースは述べています。彼は、戦略を実行する上での重要なステップとして、米国のトラックメーカーであるナビスター買収の可能性について言及しました。

ポルシェの電動化に関して、ディースは次のように述べています。「ポルシェは、全ブランドの中で最も野心的な電動化戦略を採用しています。ポルシェは、遅くとも 2025 年までに、すべての新車のポル

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

シェの半分以上が電動化モデル、つまり電気自動車かプラグイン ハイブリッドになると見積もっています。」

アウディの役割に関し、グループ CEO のディースは次のようにコメントしています。「グループ内において、最先端テクノロジーの陣頭指揮を執ることが、アウディ ブランドおよびマルクス ドウスマン率いる新しいアウディ経営陣にとっての目標です。新しいチームは、アウディをプレミアム セグメントのトップブランドに返り咲かせるという強い決意の下、この春から仕事を開始しました。」アレクサンダー ヒッツィンガーのリーダーシップの下で進行している「Artemis」プロジェクトは、特に重要な意味を持っています。「Artemis」は次世代の電気自動車として開発が進められており、「Car.Software Org」と協力して E3 2.0 ソフトウェアを開発しています。このソフトウェアは、グループ全体で採用される予定です。「Artemis」は、フォルクスワーゲンの新しいオペレーティングシステムである VW.OS を採用する最初のグループ車両です。そのため、「Artemis」プロジェクトは、ソフトウェアに関するグループの既存の専門知識を集約し、この分野における企業買収を組み合わせることで構築した新しい組織、「Car.Software」と密接に協力しています。

ディースは、スポーツ&ラグジュアリー ブランドの現状を、次のように説明しています。「ベントレー、ランボルギーニ、ブガッティといったエモーショナルなラグジュアリー ブランドは、今回の危機を非常にうまく乗り越えています。ドゥカティのモーターサイクル事業の受注も、前年比で大幅に増加しています。」

コアブランドのフォルクスワーゲンに関しては、モジュラー エレクトリック ドライブ マトリックス (MEB) をベースにした最初の 2 つのモデルの発売に焦点を当てていると、ディースはコメントしています。「ID.3(アイディ.3)」¹ の発売は、フォルクスワーゲンの未来を担い、気候目標達成の基本となるものです。この電気自動車は、既に 3 万台以上の注文を受けています。フォルクスワーゲンブランドの新 CEO であるラルフ ブランドシュテッターは、「ID.3」に続く「ID.(アイディ.)」ファミリーの 2 番目のモデルである「ID.4(アイディ.4)」² を先週発表しました。「ID.4」は、ヨーロッパ、中国、米国でほぼ同時に発売されるグローバルカーです。」

ディースは、今年 125 周年を迎え、グループ ブランドの中で最も長い歴史を誇るシュコダを祝い、最初の MEB モデルに対する高い評判について、言及しました。シュコダは、MEB をベースにした最初の電動 SUV「Enyaq(エンヤック)」³ を発表しました。このモデルは、魅力的なテクノロジー、広々としたスペース、優れたコストパフォーマンスなど、シュコダならではの魅力を融合しています。「新しい CEO のトーマス シェーファーが、これらの価値をさらに引き上げ、シュコダを成功に導いてくれることを期待しています」とディースは述べています。

グループ CEO のディースは、セアトおよびクプラ ブランドの方向性についてもコメントしています。「セアトは魅力的な製品を生み出しており、クプラ ブランドによって高価格帯のセグメントにも徐々に参入しています。クプラは、エキサイティングなデザイン、最新のテクノロジー、現代的で都会的なデザインによって人々を魅了する、電気自動車および電動化モデルのブランドへと成長するでしょう。クプ

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

ラの電動化モデルは、プラグイン ハイブリッド モデルの“Leon(レオン)”⁴、および来年発表される電気自動車の“el-Born(エル ボルン)”⁵から始まります。」

ディースは、**フォルクスワーゲン商用車**ブランドの方向性に関する重要な決定が昨年行われたことを公表しました。「グループ内でもっとも根本的な改革は、おそらくハノーバーを拠点とする小型商用車ブランドで起こっています。フォードとのパートナーシップに関する決定、“VW Bulli(VW ブリー)”の電動化、ArgoAI と共同開発している人やモノを動かす自動運転技術の準備などが、主な方向性として定められました。新しい CEO に就任したカーステン イントラは、この改革を推進しています。」フォードとの協力関係は、両者にとって開発コストを大幅に削減し、スケール メリットを活用できるという点で、とくに重要です。

フォルクスワーゲンは、パリ協定で定められた気候目標に取り組む最初の自動車メーカーとなりました。ディースは、欧州**グリーンディール**に関して、次のように述べています。「電気自動車のラインナップの急拡大と、バリューチェーンの強力な改革により、フォルクスワーゲン グループは、近い将来に導入されるであろう、より厳しい CO₂ フリート目標を達成するための準備を、競合他社に先駆けて進めています。しかしながら、欧州委員会が定めたグリーンディールの目標を達成するためには、バリューチェーンを変革する取り組みをさらに強化する必要があります。」

ディース CEO は、スピーチの最後に、自動車業界における**デジタル トランスフォーメーション**の重要性を強調しました。「駆動システムの変革は、従来型の自動車メーカーが行うべき、比較的単純な変化と言えるでしょう。しかし、今後 10 年間でクルマは完全にネットワーク化されたモビリティ デバイスへと進化を遂げるという事実は、はるかに広範囲にわたり影響を及ぼすことになるでしょう。フォルクスワーゲンは、移動用の車両という形態だけでなく、人工知能を活用して、それを安全に操縦する頭脳も提供しなければなりません。フォルクスワーゲンは、車両、頭脳そしてサービスを組み合わせ、新しい時代のユニークなモビリティ体験を提供したいと考えています。そのため、私たちは、世界中の何百万ものモビリティデバイスを確実に運用し、常にお客様とつながり、サービス、車両の快適性と安全性を毎週、あるいは毎日改善するデジタル企業に変革を遂げる必要があります。」

- 1) フォルクスワーゲン ID.3: 複合サイクルにおける電力消費量 15.4~14.5kWh/100km、複合サイクルにおける CO₂ 排出量 0g/km、効率クラス A+
- 2) フォルクスワーゲン ID.4: 複合サイクルにおける電力消費量 16.9~16.2kWh/100km、複合サイクルにおける CO₂ 排出量 0g/km、効率クラス A+
- 3) シュコダ ENYAQ iV 80: 複合サイクルにおける電力消費量 15.5kWh/100km、複合サイクルにおける CO₂ 排出量 0g/km、効率クラス A+
- 4) クプラ Leon ハイブリッド: 本車両はまだ欧州で販売されていません。
- 5) クプラ el-Born: 本車両はまだ欧州で販売されていません。

Annual General Meeting: Volkswagen confirms outlook for 2020 and underscores future investments

- Group continues to expect positive operating result for 2020
- Deliveries and incoming orders in September expected to be up on the previous year
- Upward trend anticipated to continue for the remainder of the year
- Investments in e-mobility and digitalization confirmed despite COVID-19 pandemic
- CEO Diess: “The transformation of the Group is not being held back by corona, but accelerated by it. The fact that the car will develop into a fully networked mobility device in the next ten years will be much more far-reaching than the transformation of propulsion.”

Berlin, September 30, 2020 – The Volkswagen Group today confirmed its outlook for 2020 and underscored the planned future investments despite the COVID-19 pandemic. “In both 2019 and 2020, we took significant steps towards becoming a leading provider of electric, digital mobility, achieving important milestones”, Group CEO Herbert Diess said at the virtual Annual General Meeting of Volkswagen Aktiengesellschaft. “The transformation of the Group is not being held back by corona, but accelerated by it.” The Group plans to invest €33 billion in e-mobility by 2024 and aims to become the market leader in battery-electric vehicles. A further important success factor is the new VW.OS operating system that is being developed by Car.Software.Org and will be used for the first time in Audi’s Artemis project. €14 billion alone will be invested in building IT expertise and in autonomous driving by 2024. “The fact that the car will develop into a fully networked mobility device in the next ten years will be much more far-reaching than the transformation of propulsion”, Diess said. Volkswagen expects the upward trend to continue for the remainder of the year and confirmed the outlook for a positive operating result for 2020.

The company’s development in the current fiscal year has clearly felt the effects of the COVID-19 pandemic, although business started to pick up again in the second half of the year. Worldwide deliveries in the first eight months were down by 21.5 percent to 5.6 (previous year: 7.1) million vehicles. The Group outperformed the market and reported 0.4 percentage points growth in its global market share compared with the previous year, taking this share to 13 percent. The premium and luxury brands recorded smaller decreases in the crisis than the volume brands and Truck & Bus. China, the Group’s largest single market, saw the smallest regional decrease in deliveries, at 11.5 percent up to the end of August. Around one in five new cars there comes from the Group. During this period, the Group saw the sharpest drop of 30.9 percent in its home market of Western Europe, hit more severely by the COVID-19 pandemic. Nevertheless, there, too, the market share grew 0.8 percentage points to 23.7 percent. At the end of the second quarter the Automotive Division’s net liquidity came to a respectable 18.7 billion euros. The reduction of inventory helped a lot to achieve this.

The Group implemented a 100-point plan to keep delivery chains stable and continue to supply dealers and customers with products. Volkswagen also lived up to its social responsibility, for example by

converting a former factory in South Africa into a temporary hospital, manufacturing respiratory equipment and medical masks and donating relief supplies worth €40 million. Extensive programs were initiated to support dealer partners. The CEO thanked employees for their commitment. “Volkswagen’s 670,000 employees particularly demonstrated their ability during the corona pandemic”, Diess said.

The Group expects incoming orders and deliveries in September to be up on the previous year and anticipates that the upward trend will continue for the remainder of the year. As a result, Volkswagen confirmed its goal to remain profitable in the sum of all parts of the Group and to report a positive operating result in 2020. “All medium- and long-term forecasts continue to involve considerable uncertainty and depend on the future course of the pandemic”, Diess added.

The Board of Management and Supervisory Board proposed to the Annual General Meeting the distribution of a dividend of €4.80 per ordinary share and €4.86 per preferred share. The company thus amended the proposed dividend previously announced for the 2019 fiscal year, which had originally been €6.50 per ordinary share and €6.56 per preferred share. The remaining net retained profits of €855 million will be carried forward to next year’s accounts. Explaining the background, Diess said: “This decision is not based on a lack of financial robustness of the Group. The original dividend proposal was based on the good results of the successful financial year 2019. The new proposal now takes into account the massive impact that the pandemic has had and continues to have on our company.”

Statements on strategic areas and brands

In the **commercial vehicle business**, the focus is on implementing the Global Champion strategy to leverage the synergies between Scania and MAN even better and tap into further efficiency potential. “In the Group Board of Management, Gunnar Kilian is now in charge of the Truck & Bus division and is systematically tackling the restructuring of our truck business. Together with the new TRATON CEO, Matthias Gründler, and the new MAN CEO, Andreas Tostmann, the focus will now be on improving the efficiency of the long-established Munich-based manufacturer MAN”, Diess said. He described a possible acquisition of US truck producer Navistar as an important step in implementing the strategy.

Referring to the electrification of **Porsche**, Diess said: “The brand has adopted by far the most ambitious electrification strategy of all the brands. Porsche estimates that by 2025 at the latest over half of all new Porsches will be electrified, in other words powered solely by batteries or as plug-in hybrids.”

Describing the role of **Audi**, Group CEO Diess said: “To be the technical and technological spearhead for the Group is the aim of Audi and its new Board of Management chaired by Markus Duesmann. The new team began work in spring with the ambition to lead Audi back to the top of the premium competition.” The Artemis project under the leadership of Alexander Hitzinger is of particular significance. “Artemis will develop a next-generation electric car and is teaming up with Car.Software.Org to develop the E³ 2.0 software for it. This software is to roll out across the Group.”

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

Artemis will be the first Group vehicle to use VW.OS, the new operating system by Volkswagen. For this, Artemis has close ties to the Car.Software organization that combines the Group's existing software expertise and the acquisitions in this field.

Diess characterized the current situation of the **Sports & Luxury** brands as follows: "Our emotional luxury cars from Bentley, Lamborghini and Bugatti are weathering the crisis exceedingly well. Booked business in Ducati's motorbike business is up significantly year-on-year."

Diess' comments on the core brand **Volkswagen** focused on the launch of the first two models based on the Modular Electric Drive Matrix (MEB): "The launch of the ID.3¹ is fundamental for the future of VW and the achievement of climate targets. Over 30,000 units of this all-electric vehicle have been ordered. Following on the heels of the ID.3, Ralf Brandstätter as the Volkswagen brand's new CEO presented the second model from the ID family – the ID.4² – only last week. The ID.4 is a global car that will be launched almost simultaneously in Europe, China and the USA."

Diess congratulated the longest-established Group brand **ŠKODA**, celebrating its 125th birthday this year, on the positive response to its first MEB vehicle. ŠKODA has just rolled out its first electric SUV based on the MEB, the Enyaq³, that combines typical ŠKODA values such as compelling technology, plenty of space and good value for money. "I would like to wish the new CEO Thomas Schäfer every success in further sharpening awareness of precisely these values", Diess said.

Group CEO Diess also commented on the orientation of the **SEAT** and **CUPRA** brands: "SEAT stands for exciting products and is increasingly venturing into higher price segments with CUPRA. CUPRA will become an electric and electrifying automotive brand that captivates with exciting designs, the latest technology, and a modern, urban appearance. The electrification of CUPRA is starting with the CUPRA Leon as a plug-in hybrid⁴ and the all-electric el-Born⁵, which will be launched next year."

According to Diess, key decisions on the orientation of the **Volkswagen Commercial Vehicles** brand were taken last year: "What is probably the most radical change in the Group is taking place in light commercial vehicles in Hanover. The decisions on the Ford partnership, the electrification of the VW Bulli, and the preparation for self-driving technology to move people and goods with ArgoAI set the direction. Carsten Intra is taking light commercial vehicles through this change as new CEO." The collaboration with Ford is particularly important because it significantly reduces development costs for both partners and allows them to take advantage of economies of scale.

Volkswagen was the first car manufacturer to commit to the climate targets of the Paris Agreement. With reference to the EU'S **Green Deal**, Diess said: "With our rapidly growing range of electric vehicles and the powerful transformation of the value chain, the Volkswagen Group is better prepared for the foreseeable introduction of stricter CO₂ fleet targets than the competition. However, efforts to transform the value chain must be further stepped up to support the European Commission's Green Deal."

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

Concluding his speech, the CEO underscored the significance of the **digital transformation** for the industry: “The transformation of propulsion is the simpler change that traditional automotive manufacturers must accomplish. The fact that the car will develop into a fully networked mobility device in the next ten years will be much more far-reaching. Volkswagen must be able not only to offer transportation shells but also the brain that safely steers the vehicle with artificial intelligence. Volkswagen wants to combine the car, the brain, and services and offer a unique mobility experience of the new era. Therefore, we need to transform into a digital company that reliably operates millions of mobility devices worldwide, always remains in contact with customers, and improves services, the vehicles’ comfort, and safety on a weekly or even daily basis.”

- 1) Volkswagen ID.3: combined electric power consumption 15.4-14.5 kWh/100 km; combined CO₂ emissions 0 g/km, efficiency class A+
- 2) Volkswagen ID.4: combined electric power consumption 16.9 – 16.2 kWh/100km; combined CO₂ emissions 0 g/km, efficiency class A+
- 3) ŠKODA ENYAQ iV 80: combined electric power consumption 15.5 kWh/100 km; combined CO₂ emissions 0 g/km, efficiency class A+
- 4) CUPRA Leon Hybrid: This vehicle has not yet gone on sale in the EU.
- 5) CUPRA el-Born: This vehicle has not yet gone on sale in the EU.

About the Volkswagen Group:

The Volkswagen Group, with its headquarters in Wolfsburg, is one of the world’s leading automobile manufacturers and the largest carmaker in Europe. The Group comprises twelve brands from seven European countries:

Volkswagen Passenger Cars, Audi, SEAT, ŠKODA, Bentley, Bugatti, Lamborghini, Porsche, Ducati, Volkswagen Commercial Vehicles, Scania and MAN. The passenger car portfolio ranges from small cars all the way to luxury-class vehicles. Ducati offers motorcycles. In the light and heavy commercial vehicles sector, the products range from pickups to buses and heavy trucks. Every weekday, 671.205 employees around the globe produce on average 44,567 vehicles, are involved in vehicle-related services or work in other areas of business. The Volkswagen Group sells its vehicles in 153 countries.

In 2019, the total number of vehicles delivered to customers by the Group globally was 10.97 million (2018: 10.83 million). The passenger car global market share was 12.9 percent. Group sales revenue in 2019 totaled EUR 252.6 billion (2018: EUR 235.8 billion). Earnings after tax in the fiscal year now ended amounted to EUR 14.0 billion (2018: EUR 12.2 billion).
